平成29年度(2017年度)
日本特別活動学会　第４回　実践事例募集事業

推　奨　事　例

事例番号　４－７

学級全員でつくろう一年間大切にできる学級目標
―　小学校２年生における事例　―

新宿区立早稲田小学校　　藤　原　寿　幸

実践テーマ	学級全員でつくろう 1年間大切にできる学級目標、 ―小学校2年生における事例―
実践区分 ○囲み	(学級活動)・ホームルーム活動　児童会・生徒会活動　クラブ活動　学校行事 (その他)(具体的に、学級だよりの活用　)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	文部科学省は、望ましい集団活動の一般的な条件として「活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること」などを挙げており、学級集団における目標の重要性を示していると捉えることができる。 したがって、本実践では教師が一方的に示すものではなく、学級児童全員で考え、話し合い、協力してつくりあげていく、学級目標の設定について検討することを目的とした。
実践の時期	平成　28 年　4 月～

学級全員でつくろう　１年間大切にできる学級目標－小学校２年生における事例－

藤原　寿幸

１．【はじめに】

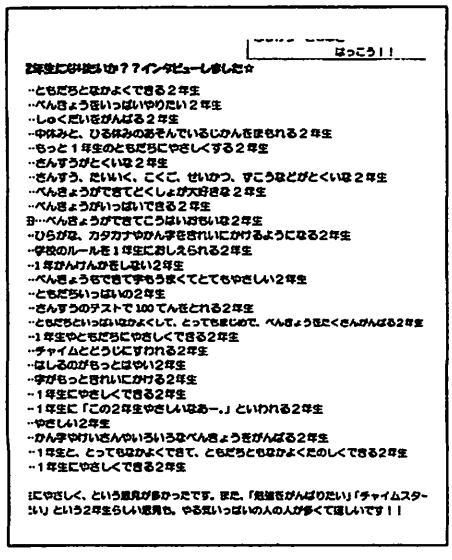
文部科学省は，望ましい集団活動の一般的な条件として，「活動の目標を全員でつくり，その目標について全員が共通の理解をもっていること」「活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え，話し合い，それを協力して実践できること」の重要性を指摘している。学級目標を作っている学級は多いと思われるが、教師が一方的に示す学級目標では児童は主体性や自律性を発揮させにくい。本実践では、けんか、人間関係トラブル、失敗…。一年間何があっても、それらを乗り越え、成長に変えていけるような、学級の全員のよりどころとなる学級目標の作成を目指した。

２．【実践事例】

Ⅰ　学級だよりを活用して学級児童全員の思いを共有

学級の児童全員が「自分は学級の一員である」ということを実感できるようになることを願い，４月当初にまず，児童に「どのような２年生になりたいか」ということについて自分の考えを紙に書いてもらった。それを全員分担任が学級だよりに掲載し，発行した。それを配布したとき，「ぼくのが載ってる」と声に出したり，声には出さないが笑顔になったりする児童がいた。一人一人に声に出して読ませ、児童相互の思いの共有化を図った。この「全員が自分の考えを書く」，「担任が学級だよりに全員分掲載する」，「全員で読み合う」という流れを，「よい学級ってどんな学級か」「この学級をどのような学級にしたいか」というテーマで繰り返し行った。完成した３種類の学級だよりは，拡大して教室内に掲示した。

このように，学級に対する自分の考えを，学級の全員が学級の全員に伝える機会を，４月中に３回設けた。こうすることにより「自分も学級のことについて，しっかり考えなくてはいけない」「自分の考えもしっかり聞いてもらえる」「自分も学級の一員である」という意識がつくられていくことを期待した。

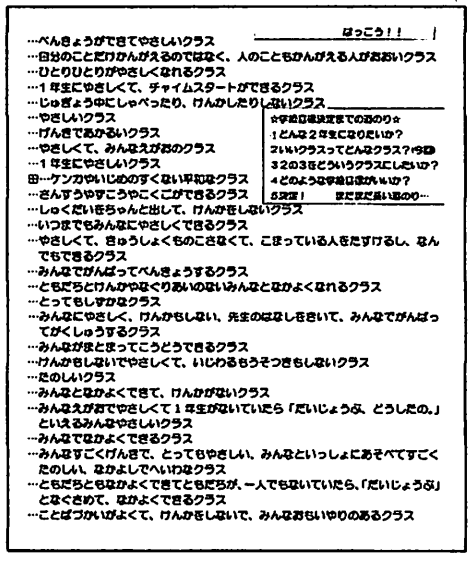

はっこう！！

2年生になりたいか？？インタビューしました☆

…ともだちとなかよくできる２年生
…べんきょうをいっぱいやりたい２年生
…しゅくだいをがんばる２年生
…中休みと、ひる休みのあそんでいるじかんをまもれる２年生
…もっと１年生のともだちにやさしくする２年生
…さんすうがとくいな２年生
…さんすう、たいいく、こくご、せいかつ、すこうなどがとくいな２年生
…べんきょうができてとくしょが大好きな２年生
…べんきょうがいっぱいできる２年生
…べんきょうができてこうはいがもいな２年生
…ひらがな、カタカナやかん字をきれいにかけるようになる２年生
…学校のルールを１年生におしえられる２年生
…１年かんけんかをしない２年生
…べんきょうもできて字もうまくてとてもやさしい２年生
…ともだちいっぱいの２年生
…さんすうのテストで100てんをとれる２年生
…ともだちといっぱいなかよくして、とってもまじめで、べんきょうもたくさんがんばる２年生
…１年生やともだちにやさしくできる２年生
…チャイムとどうじにすわれる２年生
…はしるのがもっとはやい２年生
…字がもっときれいにかける２年生
…１年生にやさしくできる２年生
…１年生に「この２年生やさしいねあー。」といわれる２年生
…やさしい２年生
…かん字やけいさんやいろいろなべんきょうをがんばる２年生
…１年生と、とってもなかよくできて、ともだちともなかよくたのしくできる２年生
…１年生にやさしくできる２年生

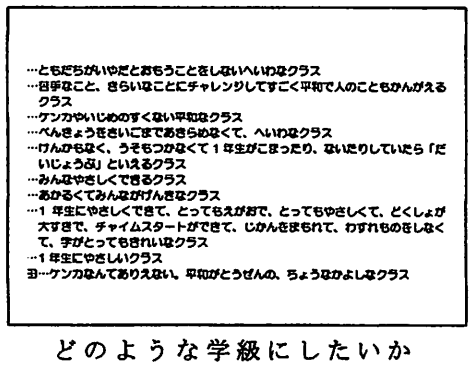
：にやさしく、という意見が多かったです。また、「勉強をがんばりたい」「チャイムスタート！！」という２年生らしい意見も、やる気いっぱいの人の人が多くてほしいです！！

どのような２年生になりたいか


はっこう！！

…べんきょうができてやさしいクラス
…自分のことだけかんがえるのではなく、人のこともかんがえる人がおおいクラス
…ひとりひとりがやさしくなれるクラス
…１年生にやさしくて、チャイムスタートができるクラス
…じゅぎょうやにしゃべったり、けんかしたりしないクラス
…やさしいクラス
…げんきであかるいクラス
…やさしくて、みんなえがおのクラス
…１年生にやさしいクラス
田…ケンカやいじめのすくない平和なクラス
…さんすうやすこうやこくごができるクラス
…しゅくだいをちゃんと出して、けんかをしないクラス
…いつまでもみんなにやさしくできるクラス
…やさしくて、きゅうしょくものこさなくて、こまっている人をたすけるし、なんでもできるクラス
…みんなでがんばってべんきょうするクラス
…ともだちとけんかやなぐりあいのないみんなとなかよくなれるクラス
…とってもしずかなクラス
…みんなにやさしく、けんかもしない、先生のはなしをきいて、みんなでがんばってがくしゅうするクラス
…みんながまとまってこうどうできるクラス
…けんかもしないでやさしくて、いじわるもうそつきもしないクラス
…たのしいクラス
…みんななかよくできて、けんかがないクラス
…みんなえがおでやさしくて１年生がないていたら「だいじょうぶ、どうしたの。」といえるみんなやさしいクラス
…みんなでなかよくできるクラス
…みんなすごくげんきで、とってもやさしい、みんなといっしょにあそべてすごくたのしい、なかよしでへいわなクラス
…ともだちともなかよくできてともだちが、一人でもないていたら、「だいじょうぶ」となぐさめて、なかよくできるクラス
…ことばづかいがよくて、けんかをしないで、みんなおもいやりのあるクラス

よい学級とはどんな学級か


…ともだちがいやだとおもうことをしないへいわなクラス
…自手なこと、きらいなことにチャレンジしてすごく平和で人のこともかんがえるクラス
…ケンカやいじめのすくない平和なクラス
…べんきょうをきれいにまでおきらめなくて、へいわなクラス
…けんかもなく、うそもつかなくて１年生がこまったり、ないたりしていたら「だいじょうぶ」といえるクラス
…みんなやさしくできるクラス
…あかるくてみんながげんきなクラス
…１年生にやさしくできて、とってもえがおで、とってもやさしくて、どくしょが大すきで、チャイムスタートができて、じかんをまもれて、わすれものをしなくて、字がとってもきれいなクラス
…１年生にやさしいクラス
田…ケンカなんてありえない、平和がとうぜんの、ちょうなかよしなクラス

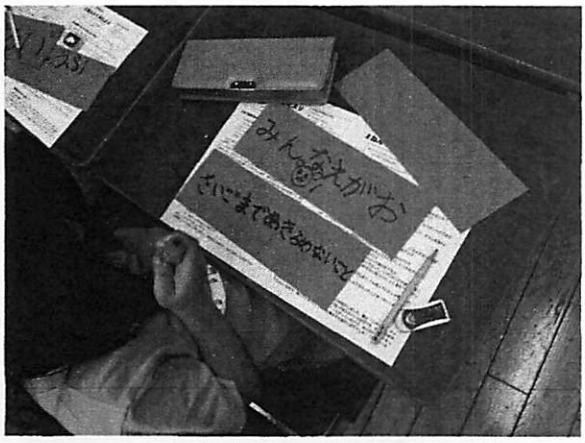
どのような学級にしたいか

３種類の学級だより
（一部分）

Ⅱ　教室の床全体を使ったKJ法で学級目標づくり

4月末に，上述の全員で書いた学級だよりを活用して，学級活動において学級目標づくりを行った。具体的には，①学級だよりに掲載された「どのような学級にしたいか」について自分の考えを発表する，②発表者以外は友達の考えについて，学級だよりを見ながらよく聞き，「いいな」「大切だ」と思う言葉に赤鉛筆でアンダーラインを引く，という活動を行った。全員の発表が終わった後は，自分が赤線を引いたキーワードを見直し，その中から3～4つのキーワードを選んで，色画用紙を短冊状にカットしたものに1語ずつ記入するという活動を行った。

後日(5月上旬)，学級活動の時間に自分が色画用紙の短冊に書いた3～4つのキーワードを「どうしてその言葉をえらんだのか」という理由と共に発表する会を行った。また，ただ発表するだけでなく，個人の発表に続けてキーワードをグループ化し共有するために，自分の発表の後に短冊を仲間分けする活動も行った。最終的には，教室の床全体を使ったKJ法のような形になった。低学年ということで、動物と野菜を例にして「にんじん、キリン、コアラ、ゾウ、じゃがいも」と板書し、「みなさんなら、この5つを仲間分けしてその理由を言うことができますよね」と話し、実際に仲間分けしてその理由を発表するという短い活動を行うことを通して、事前に仲間分け(KJ法)のポイントを教えると，2年生でもスムーズに自分の短冊を次々に友達の近くの短冊に置いたり，「これはまだ出ていないね」と新しいスペースに短冊を置いたりすることができた。自分の短冊をどこにおけばいいか迷う児童がいると，「それはこっちじゃない？」と助言する児童も現れ始めた。全ての発表が終わると，6つのまとまりに分類された。6つのまとまりについて，「それぞれをまとめるキーワードを考えてみよう」と担任が促し，「やさしさ」「げんき」「へいわ」「チャレンジ」「やくそく」「えがお」の6つにまとめられ，これら6つを大切にする学級という学級目標が出来上がった。担任は「『どのような2年生になりたいか』から，3回も全員で学級のことについて考えて，自分が選んだキーワードも全員で発表して，仲間分けをして，とても素敵な学級目標ができましたね。」と児童に話し，学級目標ができるまでに全員で考えてきたことを強調して伝えた。ある児童からは「階段を上がるように少しずつみんなで決められた」という発言があった。



キーワードを短冊に記入する様子

教室の床全体を活用したKJ法

Ⅲ　学級目標づくりから学級ニックネームづくりへ

その後，児童がもっとこの学級に親しみと愛着がもてるように，学級活動の時間に学級目標にふさわしいニックネームを決める活動を行った。これまでと同じように全員に学級のニックネーム案を書いてもらい，全員分の考えを学級だよりに掲載し，全員が発表をし，話し合いをした。このころには，この方法にも慣れてきて，活動がスムーズになり，楽しみながら活動に取り組む児童が多く観察されるようになった。話し合いでは「『平和クラス』や『やくそくを守れるクラス』というニックネームでは６つのうちの１つしか、入っていない」，「この６つをきっちり大切にできるようなスーパーな学級がいい」等という意見が出て、意見を比べ合う様子が観察された。ニックネーム決定後は，担任自身も学級のことを内向きにはニックネームで呼ぶことを意識した。児童も学級をニックネームで表現するようになった。学級目標が決まって以来，「チャイムスタートができなかった」などの児童の問題行動があったときでも，担任が学級目標の「やくそく」を指さしするだけで，反省している様子が伺われるようになり，けんかや学習ルールを逸脱するなどの問題行動は少なくなっていった。

３．【成果と課題】

「全員が自分の考えを書く」，「担任が学級だよりに全員分掲載する」，「全員で読み合う」という流れを繰り返しているうちに、ある児童は「いい学級ってどんな学級か」については「とっても静かな学級」と記述していたが、次の段階で「この学級をどのような学級にしたいか」ということについては「きっちり時間を守ったり、そうじをきれいにしたり、１年生にやさしくしたりできる学級」と記述した。学級だよりを作成しているときは，このような児童の記述した内容の深まりから,学級に対する気持ちの高まりを感じることができた。「どのような２年生になりたいか」「よい学級ってどんな学級か」「この学級をどのような学級にしたいか」ということについて、段階を経て、全員が自分の思いを学級の中で表現していくことにより、全員が当事者意識をもって、学級目標が決まることを心待ちにし、多くの児童に、「学級のことや学級目標について真剣に考えよう」という態度が育まれたように感じられた。そして、学級全員の思いが詰まった学級目標が決まることにより、一年間の方向性と目標が明確になり、担任はそれを指導・支援するための一年間の長期的な重点目標を考えることができた。日々の学校生活はもちろん、運動会や学芸会等の行事においても、全員でつくった学級目標を中心に据えて１年間を過ごした。学校生活や１つ１つの行事において、学級目標を大切にしていく様子が多く観察されるようになり、担任は学級の親和性の高まりを感じた。２学期の終わり、１２月に学級満足度尺度（QU）を実施した。「学級生活満足群」に判定される児童は，93％(全国平均 41％)となっており、客観性のある指標からも学級児童の学級適応の高さを見取ることができた。今回は２年生の事例であったが、他学年における効果的な学級目標づくりの検討も行っていきたい。次の課題としたい。